

ふるさと歴史アラカルト

300年前の錦帯橋

今年も錦帯橋芸術祭の開幕まで1カ月を切り、改めて錦帯橋への注目が高まっています。そこで今回は、18世紀初頭の錦帯橋の様子がうかがえる「刎橋留書」という史料を紹介します。

この史料は正徳4(1714)年の錦帯橋の架替に関する計画書を、佐伯家が天保11(1840)年に書き写したものです。翌天保12年の架替(第1橋全体と第2橋の橋板を工事)に際して、正徳4年の架替(第2・3・4橋全体を工事)を参考にするために写されたものと思われる。

ここには錦帯橋に必要な木材だけでなく、木材を固定するための巻金や鋸釘などの鉄材、架替に不可欠な足場の材料についても紹介されています。これらについては、それぞれの総量をはじめ、各部材の寸法に至るまで事細かに記されています。

詳しく見てみると「(なます木は)古栢二而調候也」や「(たすけ木の約6割は)はり引おとし二而調候」とあり、それまで使っていた一

部の木材を別の箇所転用したことが分かります。さらに「釘之類ハ悉新敷相整申ても、古鉄二而打直シ申二付而、追日相調へ申也」とあり、鉄材についても再加工の上で利用されたことがうかがえます。限りある資源を有効に活用していたのだと思われまふ。

また、こうした古材は、梁や桁といった橋の主要な構造部分を避け、補助的な位置においてもつばら用いられた。横山と錦見を継続して安全に渡し続けるための工夫であったといえるでしょう。

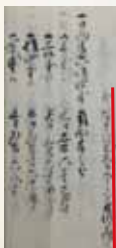
これまで江戸時代の錦帯橋については、17世紀末から19世紀前半にかけて作られた12枚の古図面を主に分析することで、その構造や材料を想定してきました。今回の史料も併せて検討することで、より具体的に江戸時代の錦帯橋の姿が明らかになっていくものと思われまふ。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

▶木材の寸法が記されている(傍線部はなます木の部分)



※1 現在の錦帯橋は錦見側を第1橋とし、横山側に向かって順に第2・3・4・5橋としている
※2 梁と桁を組むことによりできた段差を埋める役割を持つ
※3 天和2(1682)年に考案されたとされ、揺れを抑える目的で桁の側面に付けられた

岩国市 人口・世帯

人口 137,100人 【前月比 - 25人】 男性 65,068人 女性 72,032人

世帯 66,142世帯 【前月比 + 21世帯】 ※外国人人口を含む(平成29年9月1日現在)

交通事故発生件数 8月分事故件数 42件(334件) 死者数 1人(5人) 傷者数 49人(395人)

※高速道路発生分を除く ※()内は平成29年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。 **テレホンサービス ☎231234**

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、広報戦略課広報班へ ☎295016 FAX213337